

令和7年7月23日  
株式会社シーエス・ワンテン  
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社

### ディズニージュニア 番組審議会議事録

- ・日時 令和7年6月5日(木)16:00～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名  
出席委員数 5名  
書面参加委員数 3名  
欠席委員数 1名

#### (出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員／編集長)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 第三事業本部 副本部長兼子ども事業部長)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 吉田 千佳 (ユーチューバー)

#### (書面参加委員名)

- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)

#### (欠席委員名)

- 副委員長 藤田 興彦 (学校法人和田実学園 元評議員)

#### (衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン)

- 福田 泉 (代表取締役社長)
- 中口 裕丈 (編成局長)

#### (番組供給事業者：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社)

- 小林 信一 (代表取締役社長)
- 小峰 利憲 (取締役)
- 奥野 祥行 (編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

佐藤 康平（編成 マネージャー）  
待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）  
山本 綾子（編成 スペシャリスト）  
戸泉 真佑子（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）  
塩谷 美佳（編成 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）

- ・ 議題 (1) ディズニージュニアの番組編成について  
(2) 審議番組『ディズニージュニア アリエル』について

・ 議事内容

(以下、\* : 委員からの意見・質問、→ : ディズニーの説明・回答)

(1) ディズニージュニアの番組編成について

→6月の編成ハイライトは下記の通り：

- ・ 1日(日) 10:00～12:00  
「しんさく！もりもりサンデー」
- ・ 8日(日) 11:00～13:30  
「ハッピーバースデー！ Donald Duck」
- ・ 15日(日) 10:30～13:30  
「ブルーイ ちちの日のおはなし」
- ・ 22日(土) 11:00～12:30  
「スーパーキティ キラキラサンデー」
- ・ 26日(木) 10:30～12:30  
「スティッチの日 とくべつほうそう！」
- ・ 29日(日) 10:00～11:30、18:30～20:00  
「おさるのジョージ わくわくサンデー」

(2) 審議番組『ディズニージュニア アリエル』について

・ 放送概要：

令和6年8月26日(月)に、日本初回放送。

約25分×全30話（第1シーズン）。

・ 番組内容：

プリンセス・アリエルの子ども時代のお話。好奇心あふれるアリエルが、ご存じセバスチャンや親友のフランダールたちと一緒に、海の世界で冒険しながら学んでいくよ。陸の世界

に憧れるアリエルは、海に沈んだ人間の物を集めては胸をときめかせる毎日。そんなアリエルを見守る父である海の王トリトン。さあどんな冒険が待っているかな？

- 本作は、映画『リトル・マーメイド』のプリンセスのアリエルの子供時代を描いた内容。
- 映画でおなじみのフランダースやセバスチャンなど、個性あふれるキャラクターたちも登場する。
- 色鮮やかな海の世界が特徴的で、ポップで楽しい本作オリジナルの楽曲もたくさん入っている。
- 失敗から学んで諦めない姿勢や、友情の大切さなどを教えてくれるストーリーとなっている。
- \*映画『リトル・マーメイド』が公開された当時、原作の人魚姫は悲劇のお話なので、ディズニーがどう描くのかと思ったが、ハッピーエンドだったのでほっとしたのを覚えている。その子供時代だったらきっと何かとても明るいお話なんだろうなと思って見せてもらい、本作も実際にポップで明るくてとってもいいなと思った。
- \*子供への教育的観点で言うと、昔は抽象的な教訓だったように感じる。最近のアニメは、より具体的で、自分も勉強になる。
- \*例えば「一番特別なものを見つけるよりも、それぞれみんなが特別だ」ということは子供だけでなく、私達にも刺さる。子供向けのアニメだが、大人にも刺さる内容になっていると強く感じた。
- \*アリエルの子供時代という設定が優れていると感じた。その前提に疑問を持たず入ってこれたのも、『リトル・マーメイド』のアリエルが自分の中に刷り込まれ定着していることを原作の人魚姫の話聞いて今自覚した。
- \*本当に楽しくて、ダイバーシティも配慮されて、どこかで見たようなキャラクターもたくさん出てくるので、親しみもあり可愛いなと素直に感じた。
- \*「一番でなくても、次がある」というメッセージがストレートで、そして自分もそのメッセージを素直に受けられることに時代の変化を感じた。自分が2~30年前に教育を受けたときは、一番を目指せという社会だったが、今、優勝だけが全てではないというメッセージに共感できるのは、相当世の中が変わり、メッセージも変わっているということで、時代に沿っていると感じた。
- \*幅広い世代から愛されているキャラクターであるアリエルは、すごく汎用性があり、いろんな部分でものすごくフィット感があるキャラクターなのだろうと感じる。
- \*世界観としてはすごく好き。元の作品を知っているので、キャラクターたちの設定の変化が気になり、アリエルでなくてもよかったのではないかと思う自分もいたが、横で見ている子供たちは全然気にしてないようだった。
- \*親が気になっていること、いろいろと問題にあがっていることは、子供たちはあまり気にしておらず、内容が面白く世界観が好きであれば良いようで、ギャップを感じながら見て

いた。キッズ用のコンテンツなので子供が楽しめているのなら良いが、自分との葛藤もあった。

- \* フランダーが「優勝するためじゃなくて、楽しむため」と言うが、子育て真っ最中の自分としては、本当はどっちが良いのだろうという悩みがいつもある。理想的なメッセージではあるが、実際に学校に行くとまだまだ競争社会が残っていたりするので、ギャップはどうしてもあると感じた。ただ、こういったアニメを通して、現実と違う視点や別の刺激があるのは大事なことだと思う。現実的ではないと感じる自分と、だから良いのか、と色々考えさせられた。
- \* 大人だけでなく、子供も現実とアニメの世界にギャップを感じるようになってくるだろう。実際に子供の保育園時代、雪が降ったのでボールに入れシロップをかけてかき氷にして食べさせたことがあったが、次の日に保育園で「雪は食べるな」と言われていた。こういったギャップが今後も起きてくるが、いろんなあり方があるという話に繋がり、学校では学校、家では家のルールがあること、多様性を知ることもなる。
- \* 住み分けは重要で、こういう作品は絶対に必要だと思う。アニメとのギャップが学びにつながる部分もあれば、これをどういう形で現実にスライドできるのかなと考えることだけでも全然違うのかなと思う。「理想だけだろう」と白けるのも違うのではないかと思う。
- \* アースラといえば、ディズニー作品を代表する有名ヴィランだと思うが、良いおばさんとして描かれていて、本当にびっくりした。
- \* 1作目の映画『リトル・マーメイド』からいくつかの続編が制作され、実写映画でヒロインが大きく変わった経緯がある中で、アースラがここからどのように変わっていくのか、いずれディズニー作品で描いてもらえるかな、と期待したい。本当は良い人だったのに、ヴィランになっていく変化というのも面白いのではないかと思う。
- \* 子供にとって概念で理解することが難しい多様性についてストレートに分かりやすく描かれていて、いろいろなお友達がいること、お友達同士でも価値観が違うことがあることをストーリーの中で触れていくっていう機会は大切だと感じた。
- \* アリエルが失敗しても反省してすぐ立ち直って学ぶ姿もとてもわかりやすく、子供が素直に受け取ってくれたらいいかなと。前向きなメッセージっていうのが、でも安心して見せられると思った。
- \* 今回のアリエルは 2023 年の実写映画を踏襲したキャラクター。当時実写映画を見て個人的にすばらしかったが、様々な賛否両論が生まれた作品だと思う。しかし、それを踏まえたうえで子供向けの番組を制作したということで、逃げずにこの路線を貫く意思を感じたので、そのような意味でもとても重要な作品だと思う。
- \* 一昨年の映画版は、海中の描写が素晴らしく、人魚である利点を使って美しかった。一方で、この作品は舞台が海中である利点あまり見えなかった。もう少しアニメーション独自のダイナミズムが見たかった。
- \* ディズニージュニアの番組として問題ない。

- \*「みんなとちがうことが素晴らしい」や「個人それぞれの考えを尊重する」というメッセージも、幼児向けのアニメーションとして申し分ない。
- \*だが、歌が少ないのと、海の中という設定上、色が少ないことから、個人的には退屈に感じた。以前審議した『スーパーキティ』のようなオリジナルかつ教育的でもある傑作を見たことがあるため、少し物足りなかった。
- \*一昨年公開された実写版と同じく、黒人の見た目のアリエルが登場することは、あの実写映画を歴史の中に位置づけるものとなり、いろんなバージョンがあるのだと、これからの世代に宣言する意味で良いと思う。
- \*ただ一方で、元々は悪役だったアースラを協力的な魔女として登場させるなど、ここまで大きなキャラクター改変を『リトル・マーメイド』の世界でやる必要があったのかは疑問に感じた。
- \*協力し合って、新しいことを学びながら挑戦に成功する、などといった、誰もが肯定するはずのストーリー内容で、褒める要素がたくさんある。
- \*アリエルが白人ではないことから反発を呼んだ一昨年の実写版の後に、さらにこの作品を出すディズニーの勇気と信念を評価したい。そもそも人魚の世界の話で、架空のもので人種とか関係ないはずだ。
- \*とはいえ一方で、メインキャストの中に白人を入れることで、マジョリティーのことも受け入れる必要はあったと思う。
- \*日本語吹き替え版は、言葉の訛りとかもなく、人種間の少ないハーモニーの世界を上手く演出できていると思う。
- \*伝えられるべき道徳的なことも、ストーリーの中に自然に入っていて、押しつけ感も無い。
- \*アニメなのに質感が在って、「動いている」というのが、子供にもちゃんと伝わるはず。
- \*音楽も新しく、大切にされていると感じる。
- \*脚本も良くて、大人でも最後まで見られる内容だった。

- **審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：**

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和7年6月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- **審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：**

令和7年7月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

